

自然環境と治水

- ・ ケショウヤナギの世代交代がうまくできるか心配
- ・ 札内川について、近年、河原が樹林化、草原化している
- ・ 礫河原への依存度が高いイカルチドリやセグロセキレイ等の鳥が繁殖できなくなっている
- ・ 本来有していた攪乱機能を回復する必要がある

→ 札内川技術検討会

- ・ H23.9出水にて、どの程度樹木が流されたのか
- ・ 札内川ダムができる以前の魚類の生息状況を教えて欲しい
- ・ 中州を利用する陸生昆虫の情報が欲しい
- ・ 札内川の水質を公開して欲しい

→ 事務局より情報提供

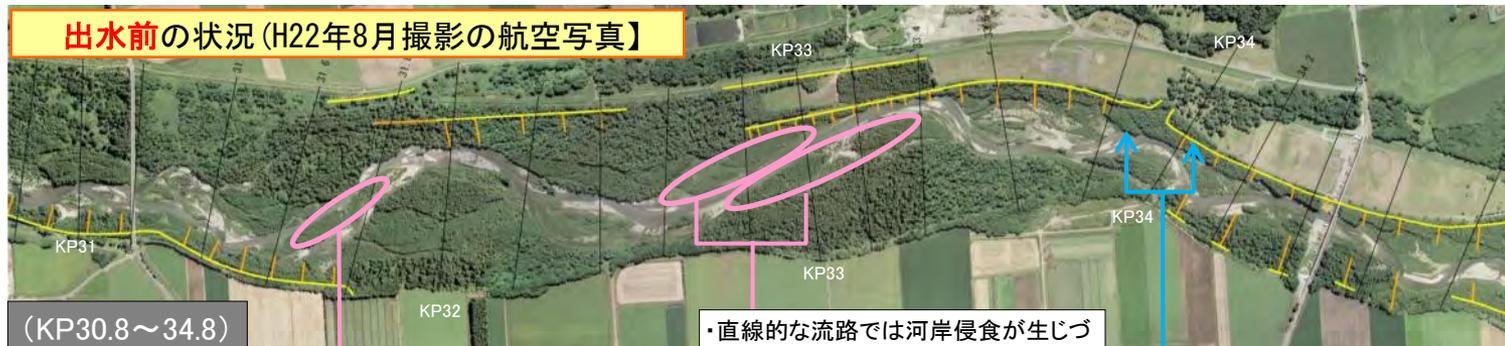
- ・ 川の魚が少なくなってきた

→ 論点

H23. 9出水後の樹木の状況

出水前後の状況 【戸蔦別川合流点上流区間】

出水前の状況 (H22年8月撮影の航空写真)



(KP30.8~34.8)

・直線的な流路では河岸侵食が生じづらく、樹木の流出は見られない

・流路変動による河岸侵食によって樹木が流出

出水後の状況 (H23年9月撮影の航空写真)



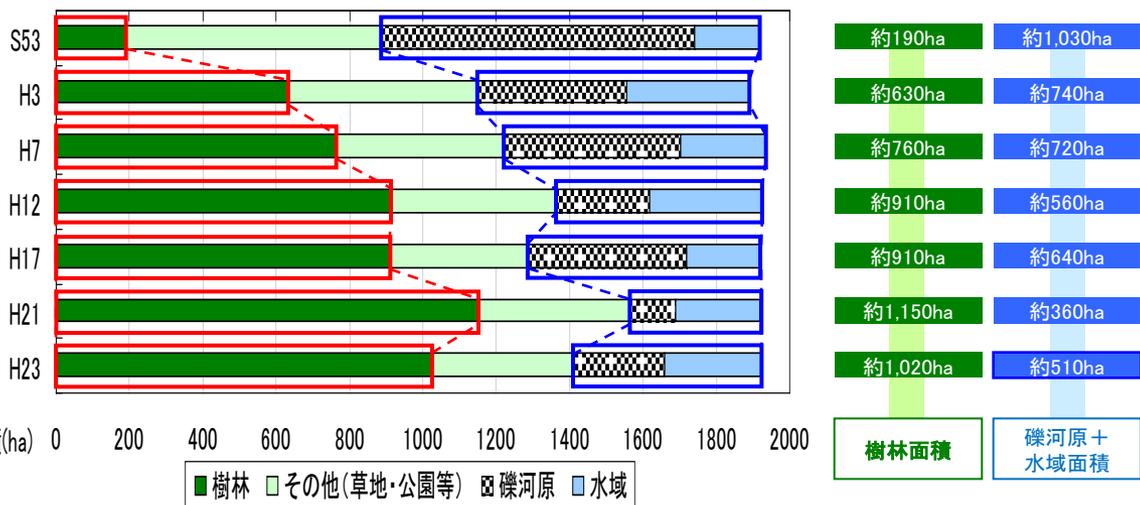
(KP30.8~34.8)

・流水の作用を受けやすい中州であっても、樹木群が発達した箇所では樹木の流出は見られない

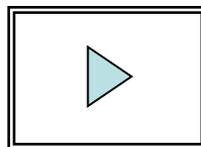
H23.9出水時の主な流下範囲(計算結果による推定値)

H23年9月出水による変化

若干の樹林面積の減、
「礫河原+水域」の増程度の変化であった。

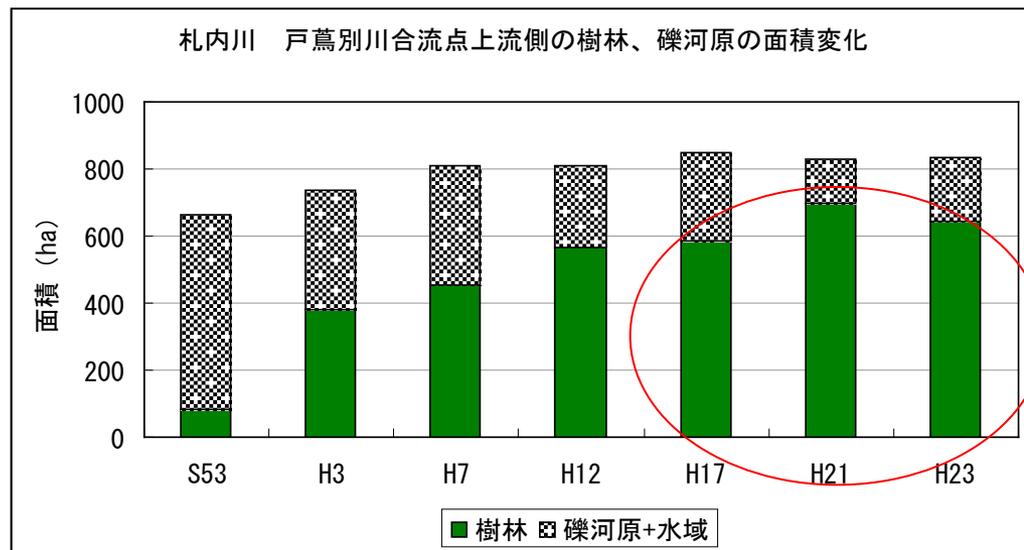
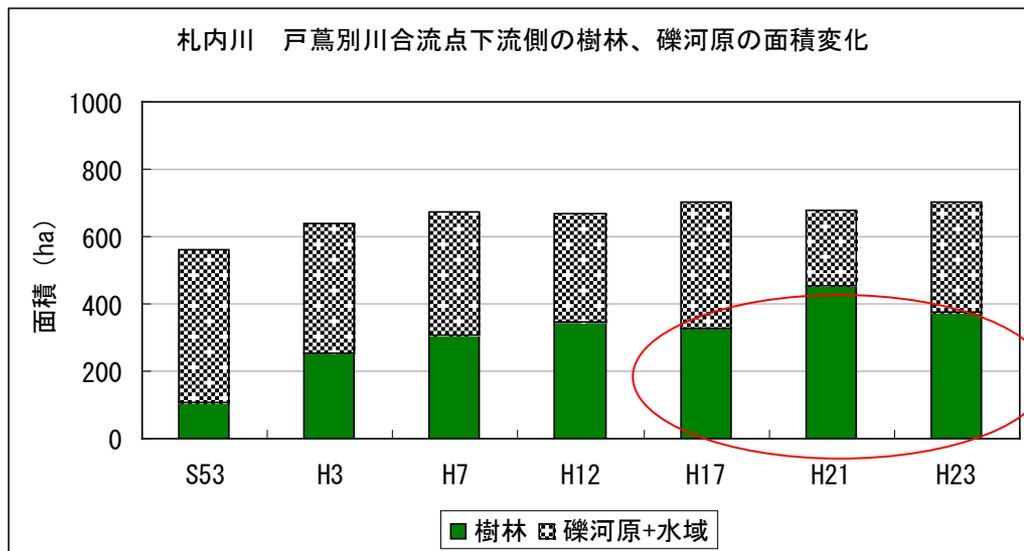


注) 右図のH12~21年の樹林等の面積は「河川水辺の国勢調査」植生図より。それ以外は航空写真判読による



動画：樹林化の様子（航空写真より）

札内川樹林化の推移（上流・下流）



戸鳶別川合流点より上流の、
樹林化割合が著しい

注) 上図のH12～21年の樹林等の面積は「河川水辺の国勢調査」植生図より。それ以外は航空写真判読による

注) 河川図は帯広開発建設部治水事業概要より (一部改変)

河川水辺の国勢調査 調査一覧

調査種別	1 巡目調査					2 巡目調査					3 巡目調査				
	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H 10	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17
魚介類調査	●夏・秋	●春					●					●			
底生動物調査	●冬	●夏	●春				●					●			
小動物調査	●夏・秋・冬	●春				●					●				
植物調査				●						●					●
鳥類調査			●						●					●	
陸上昆虫調査		●						●					●		

調査種別	4 巡目調査						
	H 1 8	H 1 9	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4以降
魚類調査		●					●
底生動物調査		●					●
鳥類調査							●
両・爬・哺乳調査			●				
陸上昆虫調査							●
陸域調査（植生図等）				●	●		

札内川の既往調査状況

※上札内橋付近

分類	主な確認種 (貴:貴重種、磯:磯河原や磯河床に 依存する種、外:外来種)			
	H3~H7	H8~H11	H13~H17	H18~20
植物	68科266種	77科400種	75科406種	
哺乳類	3科4種	3科6種	7科12種	9科17種
鳥類	17科28種	22科38種	20科33種	
両生類	0科0種	0科0種	1科1種	2科2種
爬虫類	0科0種	0科0種	1科1種	0科0種
魚類	2科2種	6科7種	5科8種	5科5種
陸生昆虫類	調査なし	43科175種	114科533種	
底生動物	調査なし	調査なし	10目55種	12目80種

※札内川ダム地点

分類	主な確認種 (貴:貴重種、磯:磯河原や磯河床に 依存する種、外:外来種)	
	H13~H17	H18~20
植物	86科511種	90科521種
哺乳類	9科21種	10科26種
鳥類	23科59種	
両生類	2科3種	2科2種
爬虫類	1科1種	2科3種
魚類	5科7種	3科4種
陸生昆虫類	201科1,463種	
底生動物	11目93種	12目103種

※河川水辺の国勢調査より

分類	主な確認種 (貴:貴重種、磯:磯河原や磯河床に 依存する種、外:外来種)	
	淡水魚	回遊魚
哺乳類	エゾトガリネズミ、オオアシトガリネズミ、ヤマコウモリ ^貴 、ミカドネズミ、カラフトアカネズミ ^貴 、ドブネズミ ^外 、ヒグマ、キタキツネ、イイズナ、エゾシカ他	
鳥類	ハイタカ ^貴 、イカルチドリ ^磯 、コチドリ ^磯 、セグロセキレイ ^磯 、カワアイサ、オオジシギ ^貴 、ショウドウツバメ、アオジ他	
爬虫類	シマヘビ	
両生類	エゾサンショウウオ ^貴 、エゾアカガエル	
魚類	淡水魚	ハナカジカ ^{貴・磯} 、スナヤツメ ^貴 、エゾウグイ ^貴 、フクドジョウ、イバラトミヨ、ニジマス ^外 他
	回遊魚	サクラマス(ヤマメ) ^{特・磯} 、ウグイ他
陸上昆虫類	カワラバッタ ^磯 、クロスジコアオカスミカメ ^貴 、オオイチモンジ、オクエゾトラカミキリ他	
底生動物	モノアラガイ ^特 、エルモンヒラタカゲロウ、ヒメヒラタカゲロウ、ヤマトチビミドリカワゲラ、ウルマーシマトビケラ他	
植物	草本類	ヤチスギナ ^貴 、ホソバツルリンドウ ^貴 、オオヨモギ、コムチミミコウモリ ^貴 、ツルヨシ、ヒロハトソウ ^貴 、エゾカワラナデシコ ^磯 、カワラハハコ ^磯 、コウゾリナ、メドハギ、カモガヤ ^外 、オオアワガエリ ^外 他
	木本類	ケショウヤナギ ^{貴・磯} 、ドロノキ、エゾノキヌヤナギ、オノエヤナギ、トカチスグリ ^貴 、クロミサンザシ ^貴 他



イバラトミヨ



オオアシトガリネズミ



カワアイサ



エゾアカガエル



ツルヨシ

札内川地域の植物・鳥類



コチドリ



イカルチドリ

撮影:アークコーポレーション(株)

- ・札内川において過去に確認され、近年の調査では確認されなくなった礫河原依存種は、カワラハハコとコチドリの2種。
- ・カワラハハコは平成6年、コチドリは平成12年の調査で確認されたが、それ以降の調査では確認されなかった(右表)。

植物・鳥類貴重種※1、礫河原依存種※1の確認状況

No.	科名	種名	H6年(1994)		H12年(2000)		H17年(2005)	
			貴	礫	貴	礫	貴	礫
1	トクサ科	ヤチスギナ					貴	
2	ヤナギ科	ケショウヤナギ	貴	礫	貴	礫	貴	礫
3		ドロノキ		礫		礫		礫
4	タデ科	ノダイオウ	貴		貴		貴	
5	ナデシコ科	エゾカワラナデシコ		礫		礫		礫
6	キンポウゲ科	フクジュソウ				貴		貴
7		バイカモ				貴		
8		ハルカラマツ	貴					貴
9	ケシ科	チドリケマン			貴			貴
10		ツルキケマン	貴					
11		ナガミノツルキケマン	貴					
12	ベンケイソウ科	ムラサキベンケイソウ	貴		貴			貴
13	ユキノシタ科	トカチスグリ	貴		貴			貴
14	バラ科	クロミサンザシ	貴		貴			貴
15		カラフトイバラ				貴		貴
16	マメ科	モメンツル	貴		貴			貴
17	アカバナ科	ヤマタニタデ			貴			貴
18	セリ科	カワラボウフウ				礫		礫
19	イチヤクソウ科	オオウメガサソウ				貴		貴
20	サクラソウ科	クリンソウ	貴		貴			貴
21		エゾオオサクラソウ	貴		貴			貴
22	リンドウ科	ホソバツルリンドウ						貴
23	アカネ科	エゾキヌタソウ				貴		
24		エゾノカワラマツバ	礫		礫			礫
25	ハナシノブ科	カラフトハナシノブ	貴					貴
26		エゾハナシノブ				貴		貴
27		ミヤマハナシノブ				貴		貴
28	スイカズラ科	ネムロブシダマ				貴		貴
29	キク科	カワラハハコ	礫					
30		コモチミミコウモリ				貴		貴
31	イネ科	エゾムギ						貴
32		ツルヨシ	礫		礫			礫
33	カヤツリグサ科	アカンカサスゲ				貴		貴
34		ハタバスゲ				貴		貴
35	ラン科	ヒロハトンボソウ						貴
合計	22科	35種			13科17種	18科26種		21科25種

No.	科名	種名	H5年(1993)	H11-H12年(1999-2000)	H16年(2004)	その他目撃情報
1	タカ科	ハイタカ			貴	
2	チドリ科	コチドリ		礫		
3		イカルチドリ				礫
4	シギ科	イソシギ		礫	礫	
5		オオジシギ		貴	貴	
6	キツキ科	コアカゲラ	貴			
7	セキレイ科	セグロセキレイ		礫	礫	
合計	5科	7種	2科2種	3科4種	3科4種	1科1種

※1: 環境省レッドリスト、北海道レッドデータブック選定種を貴重種と称す
貴重種の場合は欄に「貴」、礫河原依存種の場合は「礫」と記載

魚類貴重種の確認状況

No.	科名	種名	H3-H4年 (1991-1992)	H9年 (1997)	H14年 (2002)	H19年 (2007)
1	ヤツメウナギ科	スナヤツメ		貴 礫	貴 礫	貴 礫
2	コイ科	エゾウグイ	貴	貴	貴	
3	サケ科	サクラマス(ヤマメ)		貴		
4	カジカ科	ハナカジカ	貴 礫	貴 礫	貴 礫	貴 礫
合計	4科	4種	2科2種	4科4種	3科3種	2科2種

・貴重種魚類のうち、礫河原依存種の2種はH19年にも確認されているが、エゾウグイとサクラマスはH19年調査で確認されていない。

※確認種が貴重種の場合は「貴」、貴重種以外の礫河原依存種の場合は「礫」と記載



ハナカジカ



スナヤツメ



ヤマメ(サクラマス)

底生動物 貴重種と主な礫底依存種の確認状況

No.	科名	種名	H14年 (2002)	H19年 (2007)
1	モノアラガイ科	モノアラガイ	貴	貴
2	ヒラタカゲロウ科	エルモンヒラタカゲロウ	礫	礫
3	ヒゲナガカワトビケラ科	ヒゲナガカワトビケラ	礫	礫

※確認種が貴重種の場合は「貴」、貴重種以外の礫河原依存種の場合は「礫」と記載



モノアラガイ



エルモンヒラタカゲロウ